

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 2 月 7 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200221		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	みのりグループホーム川内		
所在地	広島市安佐南区川内1丁目22-55 (電話) 082-830-0005		
自己評価作成日	平成25年12月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200221-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200221-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年2月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭に近い施設として目標を掲げ、家庭の良さと施設の良さを常に考え、一人ひとりの希望に沿える工夫を行っています。その方の「言葉」を大切に、又、ご本人からも「大切にされている」と少しでも実感して頂けるよう努力しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>一人ひとりの利用者の思いを実現できるように常に考え、利用者の生活リズムに合わせて職員も動くように徹底されている。また、利用者が自分のペースで生活するために必要な職員の気配り、目配りについて、管理者による指導が徹底されている。利用者の要望を優先し、職員の都合を優先させないように気をつけている。施設内の生活は、家事や畑仕事、漬物作りなど利用者が主体となって営まれている。また、神社への散歩、近所のお宅訪問、町内行事への参加、買物など、毎日のように外出することで、地域とのふれあいを大切にしている。近所づきあいを大事にし、地域に貢献したいとの考えから、地域住民の介護相談にも積極的に応じている。また、運営推進会議では、「地域の高齢者をどのように支援できるか」について、一緒に考えなど、地域に溶け込んだ施設運営がなされている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎週理念を唱和している。又、必要な時に会議やミーティングを開き確認し合っている。	事業所の理念「家庭的な雰囲気を大切にし、ゆっくりと楽しく、明るい笑顔を心がけましょう」を、毎週月曜日に朝礼で唱和し、職員に意識づけしている。また、どうしたら理念が実践できるかを管理者と一緒に話し合い、職員個々の行動に反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日神社に通っている為、地域の方から挨拶をしてくださったり、町内会のお茶会に誘っていただいている。又地域の方々からの相談が増えている。	おみこし、盆踊り、初詣の行事に参加し地域住民と交流を深め、清掃活動や祭りの準備には利用者と一緒に協力している。近所の方が野菜を持って来たり、小学生が気軽に立ち寄る関係となっている。地域住民の介護や認知症の相談に積極的に応じ、時には集会所で認知症に関する話をすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度23回の講座を開催。それ以外に個人的な相談が増え、その都度機関など紹介している。入院されている地域の方が外出された際、自宅での介助方法を一緒に考え、実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回10名以上の方々が集まって頂いている。その中で施設の報告だけに留まらず、川内の地域資源や、相談できる機会としている。又、意見が出た時には即行動、即返信を意識的に行っている。	地域に溶け込みたいとの熱意を町内会が理解し、多数の住民が参加するようになり毎回活発な意見交換が行われている。このホームが、地域の高齢者をどのように支援できるか考える機会になっている。家族への近況報告の実践も、運営推進会議の中から出た意見である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	積極的に相談、報告をしている。来年度は介護保険課の職員を対象とした認知症講座の依頼を受け、実施予定である。	市からの要請で認知症ケアに関する講座の講師として協力している。虐待や家族関係に悩むケースについて、市や地域包括支援センターからの相談に応じたり、事業所の利用者と関係がなくとも高齢者宅を訪問するなど協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	外部研修で受講し、施設内研修を行う事で意識の統一化を図っている。又、カンファレンス時に確認している。	施錠はしないという事業所の考えを契約時に説明するほか、鍵を希望する家族に対しては、利用者の状況に変化があるごとに家族に報告し相談している。また、「言葉による行動抑制」も一種の身体拘束であるとし、職員に周知している。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	外部研修で受講し、施設内研修を行う事で意識の統一化を図っている。又、カンファレンス時に確認している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	他事業所にも「権利擁護」の勉強会講師の依頼をいただいている。その都度、職員にも同じ内容の研修を行う事で周知している。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	ご家族の希望を聞いた上で、契約も自宅か施設で説明を行っている。又、日時を変えて改めて説明もしている。利用が開始した後でも適宜、説明している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	今年度も1件、ご家族からご指摘を頂き、職員会議を開き、話し合いの場を設けた。その結果を管理者、計画作成担当者が報告している。	家族会や家族来訪時に質問をし易い雰囲気作りを心がけ、家族の要望を聞いている。介護用品の使用に関する質問が家族からあった場合、なぜその質問が出るに至ったか、家族とのコミュニケーションに問題はなかったか等を職員間で話し合い対応策を検討した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>意見の中で、即対応可能であれば即日、回答なり実施している。時間がかかる場合はその経緯を説明している。</p>	<p>管理者は日頃から職員とコミュニケーションを取り、職員の意見を聞いている。職員からの提案により、来客用の子どもスリッパを用意したり、入浴介助用ウェアや思い出の写真の掲示、業務の効率化に結びつくような書式の改善に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>主婦の立場、健康状態、家族背景など、相談がある時は柔軟に勤務変更をしている。又、会社経費で年2回飲み会を開いている。行きたい研修には必ず行けるよう工夫している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>希望があれば、会社経費で参加出来ている。又、現場で実践できやすいように、報告書などで周知徹底している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他事業所と合同勉強会を主催している。又、他事業者間で職員交換実習をおこなっている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>当施設で一番大切にしている事で、特に入居して間もない時は常に隣にいるようにしたり、自宅へ送ったりしている。居室にも馴染みの物を極力持ち込んでいたっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安に関する相談が増えている。入居する。しないに関わらず自宅へ訪問したり、待機の時から関係を築くように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは「その人」を知る為に行動を制限しない事を実施しています。又、ご家族にもご協力を頂きながら、一緒に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「横の繋がり」「近所つきあい」をイメージしながらも、介助の時は敬う事を誤解されない様、最新の注意を払っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の希望時、ご自宅に送っている。又、ご家族が施設に泊まりやすい様工夫したり環境を整えている。その為これまでの家族間の距離が広がらない事に繋がっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	その方が昔住まわれていた所へ行ったり、馴染みの方が亡くなられた時は一緒に葬儀に出席したり、その方の「地域」に参加できやすいように工夫、実践している。	利用者と話をしたり、様子を観察する中で、その方のなじみの人や場、環境を理解し支援するようにしている。墓参りや親しかった近所の家に遊びに行くなど、それまでの関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お互いに役割があり、これをお互いが手伝いあっている。又、入居者同士が話しあい決めている。居室で仲の良いもの同士でお茶を飲まれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了した後も定期的に連絡を取っており、必要と思われる施設を紹介している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	墓参りや兄弟に会いたい。仕事に就きたいなど色々な希望に沿っている。	日常の会話の中から利用者の思いを引き出し、「申し送りノート」や「ケアノート」に記入し、皆で話し合い思いを実現するようにしている。なお、「今の今の思いを大切に」との考えから、職員がその人の思いを聞いたら、即行動に移すこともある。また、その方の思いを最大限実現したいと職員は考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	人生史があり、これまでの仕事や性格など把握に努め、みのりでのケアに結びつくよう工夫、実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その方の能力を適宜見直しをしている。その上で、一人で外出されたり、料理をされたり、畑をされたりしているが、事故はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>取ってつけたようなケアプランは廃止しており、具体的で実現可能な事を挙げる事で実施している。</p>	<p>「なじみの場所に行きたい」「日々の行為は皮むき、新聞を読む、餌やり」などの分かりやすい介護課題、目標を設定している。モニタリングシートに全職員の意見を記入し計画作成者が集約し、それをカンファレンスで話し合い、ケアプランの見直しに繋げている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録は勿論、それ以外に個別のノートを作り、細かく記入する事で実施できている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルから基準に切り替える事で、職員だけの決め事が少なくなり、結果、柔軟な対応ができています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの方が来て下さったり、地域の友達が遊びに来て下さっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>何か気になる事があれば、その都度ご家族に相談している。又2週間に1回、往診に来て頂いている。</p>	<p>入居時に、本人や家族の希望を聞き、それまでのかかりつけ医を希望する場合は職員が付き添って受診している。協力医に往診を受ける際は往診ノート、それ以外のかかりつけ医に受診する場合はケアノートに記録し、利用者の体調管理に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師不在の為、主治医と適宜相談、報告している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の可能性がある辞典でご家族から希望を聞いて、主治医に伝えている。又、ほぼ毎日お見舞いに行き、得た情報は家族、主治医に報告している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化の指針、看取りの実践を説明している。入居後も随時ご本人、ご家族の希望を聞き、話あっている。</p>	<p>入居時に重要事項説明書において説明を行い、入居後、本人や家族に対して、「重度化した際のあり方について」意見を聞いている。重度化した場合は本人、家族、医師と相談し方針を決定し、他施設への転移を含めて、出来るだけ要望に沿った支援を行なっている。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成しており、それを元に勉強会を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の消防避難訓練を実施している。運営推進会議で入居者人数を伝えており、災害時の事を話している。</p>	<p>火災・災害に対する具体的な対応策について消防から事前にアドバイスを受け、夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。町内会と防災協定を結ぶ予定であり、水害時の近隣福祉施設との協力体制についての話し合い行なっている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に職員に意識的に取り組めるように気付いた時に話し合っている。又、実習生を受け入れた際「みりの悪い所」を必ず見つけ出してもらうよう説明し、これまでも指摘を頂き、課題の自覚、克服に努めている。	トイレや風呂などで鍵をかけることが難しい利用者には「使用中」の札をかけ、他人から誤解を招くような言葉遣いに気をつけることように徹底している。掃除など利用者を介護してない時に、利用者から声をかけられたら、利用者への対応を優先するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	18通りの朝や生活を意識している。又食事嗜好に合わせて柔軟に対応するなどご自分で生活を決めて頂けるような工夫、努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	シフトではあるが、必ず決まった事をするのではなく、その日の勤務者がその時に判断し、なるべくご本人の主張が通るような体制になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	櫛の使い方、服の好み、シャツは入れるのか出すのか。そこまでも把握し、なおかつご本人に確認しながら行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎回一緒に食事を一緒に作れる環境になっている。又1対1で外出に出かけた時、その日の気分で料理を変えている。	献立、調理、買物などに利用者が参画し、皮むきや食材を切るなど能力に応じた仕事を利用者にしてもらっている。買物時の利用者の嗜好によりその日の献立が決まることもある。食事の時間は決まっているが、利用者の生活リズムに配慮し食事の声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	記録に記入する事で最低限のバランスなどは把握している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	一人では難しい人には介助，そうでなくご自分でされる方でも時々はさりげなく確認している。又，希望によって訪問歯科に来て頂いている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	不必要なオムツを随時見直している。又，日中、夜間と形状を変えたりと根拠に基づく支援を行っている。	できるだけオムツを使用しない取り組みを行なっている。個々のケースについて，衛生用品の形状や種類について，排泄記録を基に検討している。その結果，利用者の半数が普通のパンツを使用し，リハビリパンツの利用者はあるものの，オムツ利用者はいない状態となっている。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	入居者によって朝に牛乳だったり，薬を使ったりとその方の便秘に関する情報を集め一番良い方法をとるよう努力している。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	基本は午後に入るようにしているが，これまでご本人の希望もあり，朝風呂や夜に入られたりや臨機応変に支援している。	入浴時間は，基本的には午後であるが，利用者の希望に応じた時間に入れるようになっている。入浴を嫌う利用者に対しては，「体をポリポリ搔くなど」の兆候を見つけ，必要があれば，夜間でも入浴できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>不安を感じている方には夜勤者が1対1で対応するなど、安心できる環境ができるよう柔軟に対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人ファイルの中でも最新の薬台帳が分かりやすく整理し、把握に努めている。又、服薬に関しても往診時以外でもご家族の希望や様子の変化など随時ドクターに相談しその時に適した服薬管理を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>毎日買い物に行けたり、気軽に外食や買い物も行っている。又、趣味としてビリヤードや釣りなど個別に対応している。誕生日は1対1で外食を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>墓参りや自宅への帰宅。思い入れのある神社など、その時に出た話題の流れを大切にしながら外出できている。</p>	<p>毎日、買物や散歩に出かけ、ドライブにも出かけている。利用者にはいつでも出かけられると実感してもらえるように配慮している。職員が声かけし一斉に出かけるといよりは、個々の利用者が出かけそうなタイミングを見計らって職員が付き添うなどの配慮がなされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人が財布を持たれている方もいる。又、買い物の時も預かっている財布を本人に渡し好きな物を買って頂いている。レジもご自分でされるよう、遠くで見守るなど工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が希望の時の他にも、なかなか会えていないご家族には随時、連絡をしている。又、友達の面会も多い。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとに掲示物を細目に変えている。共用空間ではにおいなど特に注意し、配慮している。</p>	<p>全体的に利用者の動きが活発な時には職員も活発に作業し、静かな雰囲気になってきた時には職員も静かに動くなどの配慮をし、必要以上に声かけをして利用者のペースを乱さないようにしている。また、不快な臭いが生じないように注意し、汚れたらすぐに掃除をするなどの配慮がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人になりたい時は、なるべく職員が声をかけないように工夫したり、一人で外出されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>独居の方では、実際に部屋を見に行き、写真を撮って、出来る限り再現している。又、自宅が近い場合は馴染みの物を残し、出来る限り、自宅へ送っている。</p>	<p>入居前の部屋の様子を再現したり、カーペットの要望がある場合、転倒しにくいように安全面の工夫している。部屋の入り口には、近所の森で取れた枝を使った表札づくりなど、居心地の良い居室づくりのための工夫がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>鍵はかかっておらず、畑や外出も出たい時にいられている。洗濯、料理、掃除、片付けなど入居者、職員とで分担している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 みのりグループホーム川内

作成日 平成26年 3月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	各職員のレベルに合った研修機会が少なかったり、本人が望む研修になかなか参加できていない。又、他施設との交流などの時間が限られており、実施回数が少ない	希望する研修に出るだけでなく、本人が希望する事の講師を招くなど、学べる機会を増やす	各職員と面談、アンケートを実施し、研修を企画、実施に繋げる	1年
2	14	視野、視点が限られている	他施設と交流することで、視点が広がり、当事業所での介護に幅が生まれる	他施設と合同勉強会や、懇親会を実施する	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。